



通信

HP 学校だより
R5.12.8
NO.31
文責 伊藤美佳



自分と対峙する

7日（木）は校内マラソン大会でした。

マラソン大会の前に子どもたちと話をしていると、「〇位になりたい。」と自分の目標を教えてください、「△位になると、□を買ってもらえるから、がんばる。」などとお家の人とのやり取りを教えてくださいました。中には、「走りたくないなあ。」と本音を漏らす子もいましたが、走る前には緊張と闘志が混じった表情でスタートラインに立っている姿が印象的でした。

どの子も、自分の目標に向かって、あきらめずに走っていました。そんな姿を見ると、大きな声で応援したくなります。子どもたちの頑張っている姿は、見ている者に感動を与えてくれると、今更ながらに感じた時間でした。応援に来てくださった保護者の皆様、地域の方々はどう感じられたでしょうか。

マラソン大会前の朝会（「人権」について）で、まず「自分のことをわかる」ことが大切と話しました。まさに、マラソンは自分と対峙する場だと考えます。「もうだめだ」と思いながらも「あと少し走ろう」と頑張れたり、応援の声を聞いて力が出たり、「自分って、結構、がんばれたな」そんな自分を知るよい機会です。子どもたちの中には、どれだけ頑張っても100点満点（完璧）でなければダメだと考える子がいます。いつも100点満点をめざすのは良いことですが、完璧でなければすべてダメだと考えてしまうと苦しくなります。完璧でなくても、ありのままの自分を認め、まず自分を好きになってほしいです。「マラソンやりたくないなあ。」と言っている自分があることを「わかり」、認めてあげることで、成長の階段をひとつ登れるのだと考えたいです。

豊坂っ子みんながステップアップしたことを願っています。

主体的って

マラソン大会の前日のお話です。

その日の朝、交通立ち番で地域の方とお話していると、「この前、集合場所に行ったら、子どもたちの姿がなく、ランドセルだけ置いてあってびっくりしたよ。子どもたちが戻って来てから聞いたら、走ってたと教えてくれたので、マラソン大会があるのかなと思ってたよ。」と教えてくださいました。それを聞いてびっくりです。登校前に、通学班で練習しようと言った子がいること、それに賛成して練習する子たちがいること。子どもたちの主体的な行動に、とても感動しました。

その日のコース練習（実際のコースを走って練習）の時、豊坂保育園の子どもたちが応援してくれました。保育園の子たちと話をしていると、「〇〇君、お家の近くで練習していたよ。」「△△ちゃんも、走っているのを見たよ。」と豊坂っ子の自主練習の様子を教えてくださいました。

このような話を聞いていると、心がわくわくしてきます。自分で目標を決めて、自分から行動する豊坂っ子。マラソン大会を経て、きっと大きく成長したことでしょう。